昭和歌人集成・30

水木

高野公彦歌集

昭和歌人集成・30

水　木

高野公彦歌集

短歌新聞社

水　木　　<昭和歌人集成30>

昭和59年2月7日　初版発行
昭和60年4月25日　3刷発行

著者　高野公彦
発行人　石黒清介
印刷　協同印刷KK
発行所　短歌新聞社
〒166 東京都杉並区高円寺南4-43-9
振替口座 東京5—21683
電話 03 (312) 9185

1092—000251—4362　　定価 1400円

目次

のこぎり——7
ビラ——10
花の如——13
本薬師寺——15
犬の舌——18
ギリシャ悲劇——20
「紅岩」——22
横田基地——25

空中の音——28
電車——30
霧状の雲——32
泥に棲むもの——34
叔父——36
鉄骨の中——37
白つつじ——40
芯流——41
カンナ——43
郷里時間——45
一九六六・一〇・二一——48
喜木津村——50
はまゆふ——51

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook

卒業――53
杭の音――55
鶏――57
楕円思想――58
嗚咽――68
鉄板赤く――70
劇「OKINAWA」――73
横須賀――77
死児――78
棕櫚の木――84
お茶の水学生街――86
江戸川――88
納骨――90

たましひ——92
牛、馬、ひつじ、象、駱駝などから見られてゐる人——94
人体——102
あのやさしい夜の中におとなしく入つてゆくな——105
水中の桃——114
解説　坂井修一——117
略歴——123
あとがき——125

水（みず）

木（き）

のこぎり

夏まひる木を挽きつくししんしんと丸のこぎりは回りけるかも

真夜中に救急車西へ走り去りぬ西には窓ふかき病院ありき

吊革の白き環（わ）の揺れながめつつバイト帰りはひもじかりけり

苦しかりし試験終りぬ頭より湯をふんだんに今宵は浴ぶる

ひとときを君と向ひし今日は暮れてあたたかなれば街に灯の満つ

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook

青春はみづきの下をかよふ風あるいは遠い線路のかがやき

茫々たる世の思潮に技術を捨てあらがひて文科に三年を経へつ

発ちてゆくデモ隊の遠くうたふこゑ聞こゆる教室に講義はすすむ

ビラ

ルーテルの聖書には強く気味悪き生命(いのち)ありと言ひしヘッセも逝きき

葡萄買ひてはかなく街を帰る夜は〈心の貧しき者〉か我も

はてしなく分派する学生運動に呑まれ教室に帰らぬ誰彼

平和説きて争ふ如ビラ貼られありそのどれもどれもいつはりは無き

主義異る学生ふたり廊下に遇ひ視線するどく互にそらす

しづかなる秋来ればおもふ鎌倉の堂の奥ふかき螺鈿のきらめき

打ち寄する大波巌(いは)をせりあがり落ちゆくまでの暗きその腹

岩畳漬(ひた)せる濤の引きしかば水は岩間をせせらぎくだる

花の如

熱帯魚のうすき身は灯に透きとほり腹に呑みたるものの影見ゆ

デモ参加を説かれつつゐる我の眼に窓の冬木の枝はするどし

法を超ゆるデモ行進もうべなふと言ひつのりつつ君が瞳うるむ

発ちてゆくデモを瞻(まも)りて午すぎを校舎に凭(よ)ればわが背なか冷ゆ

冬枯のいろとなりたる木(こ)の間来て鯉ふかく棲む池のへに立つ

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook